

陸部と水部の同時計測、効率的かつ高精細計測を可能にする 最新型「グリーンレーザー搭載ドローン」を導入

2021年11月より本格運用を開始

株式会社エアーズ（本社：東京都港区、代表取締役：實籾 富二男、大越 信幸）は、機能強化と運用面向上を実現した「グリーンレーザーTDOT3GREEN」を導入。2021年11月より本格運用を開始いたします。

また、本格運用開始に伴い、次世代ドローン測量の主力となるレーザー測量技術を地方自治体、建設土木業界他、関係者の皆様にご覧いただきたく、全国の「JUAVACドローンエキスパートアカデミー」で順次公開デモンストレーションを行なってまいります。

■導入背景

地球温暖化の影響で気候変動リスクが高まる中、近年全国各地で記録的大雨を伴う風水害が発生、河川の氾濫や土砂崩れにより多くの被害が発生しています。

災害による被害を最小限にとどめる対策としては、河川や森林地帯を面的かつ詳細にとらえた3次元データ化による地形の把握が必要となります。

また、国土交通省からは建設土木、インフラ分野におけるDX化が推進され、港湾や河川領域でもDX化推進の波が広がり、様々な分野において3次元データ化のニーズが高まっています。こうした状況のなか、ドローンに搭載したレーザー計測システムにより、地上と水底をシームレスに、そして高精度に3次元計測できる「TDOT 3 GREEN」の活用推進は、河川や森林地帯、また建設現場における調査や点検・管理の精度向上と効率化を支援すると共に業務の変革を後押しするものとなっています。

株式会社エアーズは、全国の測量・建設土木業界向けにソリューション提供を行い、グリーンレーザー搭載ドローンを活用したDXの推進を図ります。

■製品特長

水を透過するグリーンレーザーを、軽量で小回りの利くドローンに搭載することで、浅瀬の水底の地形や雨上がりなどで濡れている地面でも広範囲かつシームレスに測量することができます。レーザーを使用することで、測量成果がダイレクトに点群化され、業務の効率化、生産性の向上が期待できます。また、航空レーザー測深機（ALB）よりも低高度から計測するため、1㎡あたり100点以上の高密度な点群データを取得可能。河床地形も詳細に再現できます。

送信機上でのリアルタイム断面表示や、レーザーの計測状況、測深状況を確認することもできます。また、少雨に対する機器の保護対策も強化されています。

製品詳細：<http://amuse-oneself.com/service/tdot3>